

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 久留米市立青陵中学校 】

| | |
|--------------------|--|
| 1 実践テーマ | ①・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・⑤(複数選択可) |
| 2 実施対象者 (学年・人数) | (1) 体育理論 3学年：99名 (2) シットイングバレーボール 1学年：101名 3学年 99名 (3) 青陵オリンピック 全校生徒：291名 (4) オリンピックデーラン 1学年：17名 2学年：7名 |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ①教科名 (保健体育) ②行事名 (青陵オリンピック) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 (オリンピックデーラン) ② その他 () |
| 4 目標 (ねらい) | (1) 体育理論の授業では、国際大会が国際親善や世界平和などに大きな役割を果たしていることを理解し、東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方を考えることができることをねらいとした。 (2) シットイングバレーボールでは、障がい者への理解を深め、パラリンピック種目は障がいの有無に関わらず、だれもが楽しむことができることを理解することをねらいとした。 (3) 青陵オリンピックでは、生徒会の保健体育委員会が企画、運営を行い、スポーツを支える活動の重要性やスポーツをみる楽しさなどを実感することをねらいとした。 (4) オリンピックデーランでは、オリンピック・パラリンピアンと一緒に運動することを通して、東京オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まることをねらいとした。 |

5 取組内容

(1) 体育理論「国際的なスポーツ大会とその役割」

導入段階では、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックのダイジェスト VTR を視聴し、その中から様々な場面を切り取りピックアップした。展開では、ピックアップ場面の中に登場する様々な立場の人物の気持ちを考え、グループで共有した。そして、グループごとに登場人物の気持ちに迫り、ロールプレイングで発表した。



(2) 青陵オリンピック（行事）

生徒会の保健体育委員会主催で、学年別、男女別で昼休みにクラスマッチ（ドッジボール）を行った。閉会式の中で、優勝クラスには賞状、活躍した選手には MVP 賞をおくった。



(3) 体育「シットイングバレーボール」

導入では、シットイングバレーボール女子日本代表の試合を視聴し、競技のイメージをつかんだ。前時にバレーボールの授業を行っていたので、ルールの違いと主な反則を確認した。展開では、座った状態で素早く動き、狙ったところにパスする感覚を身に付けるために円陣パスを行った。その後、男女別に試合を行った。



(4) オリンピックデーラン

久留米市教育委員会主催のオリンピック・パラリンピック事業に1年生が17名、2年生が7名参加した。オリンピックの方々と一緒に走ったり、質問したりして交流した。



| | |
|----------------------|---|
| 6 主な成果 | <p>(1) 体育理論の授業では、VTR を用いて生徒たちの意欲を引き出し、個→小集団へと思考の流れをつくり、ロールプレイングすることでオリンピック・パラリンピック（スポーツの国際大会）の意義に迫ることができた。</p> <p>(2) シットイングバレーボールでは、実際のパラリンピック種目を体験することで、障がい者の理解とパラリンピックスポーツの魅力を実感することができた。</p> <p>(3) 青陵オリンピックでは、企画・運営を生徒達自ら行うことで、スポーツを支える活動について理解を深めることができた。また、仲間を応援することでスポーツをみる活動の楽しさを実感できた。</p> <p>(4) オリンピックデーランでは、オリンピック・パラリンピアンと直接触れ合う体験を通して、オリンピック・パラリンピアン の偉大さと体を動かす楽しさを知り、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めることができた。</p> |
| 7 実践において工夫した点（事業の特色） | <p>(1) 体育理論の授業では、導入でダイジェストVTRを用いて興味・関心を高め、学習意欲を引き出すようにした。展開では、グループごとにロールプレイング活動を行い、スポーツに関わる様々な人々の視点にたって考えることができるようにした。</p> <p>(2) シットイングバレーボールの授業では、導入で日本代表の試合動画を視聴し、バレーボールとのルールの違いや競技のイメージをつかみやすくした。また、ウォーミングアップで臀部をフロアにつけた状態で動く練習を行い、慣れない動きの練習をして試合に臨ませた。</p> |
| 8 主な課題等 | <p>(1) 体育理論 ○ダイジェスト VTR からのピックアップ場面の見直しを行い、より多くのスポーツに関わる人々の気持ちを考えることができるようにする。</p> <p>(2) シットイングバレーボール ○バレーボールの授業との連携を意識し、ルールの違いを明確化する。 ○導入で座ったまま動く練習を十分に行い、試合でラリーが続くようし、パラリンピック種目の楽しさをより実感できるようにする。 ○男女混合チームをつくり、男女の交流を図る。</p> <p>(3) 青陵オリンピック ○オリンピック・パラリンピック種目などで実施し、保健体育の授業との関連を図る。 ○休み時間などを利用し、練習時間を確保する。</p> |
| 9 来年度以降の実施予定 | <p>【令和2年度】</p> <p>1 学期：体育理論（1年）「スポーツへの多様な関わり方」 （2年）「スポーツと社会性」 （3年）「国際的なスポーツ大会とその役割」</p> <p>2 学期：シットイングバレーボール（全学年） 青陵オリンピック（全学年）</p> <p>3 学期：クラスマッチ（1・2年）</p> <p>来年度以降は、全学年を通してオリパラ教育をさらに推進していきたいと思う。また、7月24日から東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、1学期に体育理論とオリンピック・パラリンピックの内容を絡めて授業を実施したいと考えている。</p> |

